辻川だより

第３号［2007 秋号］　平成１９年９月２２日

発行　辻川区　［辻川公民館］
〒679-2204　福崎町西田原 1227
TEL　0790-22-5763
ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ　http://www10.plala.or.jp/tujikawa/public_html/

辻川界隈展［民俗学のタベ］によせて

区長　釜坂道弘

今年は特に暑い日が続きましたが、皆さんお変わりは有りませんか。お見舞い申し上げます。この暑い中、二十数年続いた辻川界隈展を今年も開催する事が出来ました。

準備をいただいた方々、出展をいただいた方々、また、協力をいただいた方々に感謝を申し上げます。この辻川界隈展は他地区にない「辻川らしさ」を一番発揮出来る行事と言えます。

古い街並みが残る辻川界隈を画廊に見立てての界隈展、また、山桃忌の前日に行われた「民俗学のタベ」では昨年にもまして多くの皆さんに参加をいただき、辻川にしか出来ない行事が今年も盛況裏に開催出来たことは大変喜ばしい事と思います。

今年は特に「民俗学のタベ」当日午後の「銀の馬車道」写真展・講演会が多くの方々の協力により有意義な催しとなりました。今後も地域を愛する皆さんと『参画と協働』で共にまちづくりを推進してまいりたいと考えています。

協議委員会は今

8月と9月の定例・臨時協議委員会で検討した内容や報告事項を一部紹介します。

① 辻川界隈展・民俗学のタベの予算実行率は約９０％
② 防犯グループの組織づくり
③ 市川駒が岩への町道拡幅。
④ 辻川区が経費２割負担予定。防災無線のデジタル化に伴い、スピーカー柱（辻川は農協の資材倉庫裏〔東側〕）に役場への連絡電話と非常放送システムを設置。
⑤ 防災機器の点検。管理台帳整備も含め近日中に。
⑥ ハウジングタイホー分譲地の町内（隣保）入りについては、まず第一期の６軒は９隣保へ。
⑦ 公民館排水の公共下水道へのつなぎ込みはかなり大掛かりな工事になりそう。
⑧ 薬師山霊園の空きは、残り３区画。
⑨ ８月１８日、秋祭り特別委員会開催
⑩ 防犯街路灯は環境担当が６箇所を要望。
⑪ 協議委員選出選挙のあり方。
⑫ 秋祭り服装についての青年団からの要望や実行委員会の構成を検討。

お知らせ

『銀の馬車道』あれこれ

銀の馬車道は、生野鉱山と飾磨港を結ぶ日本初の高速産業道路として明治９年に整備された。現在はほとんどが県道や国道に変わっているが、往時をしのばせる記念碑などが残っている。中播磨では、県民局が音頭を取り、「銀の馬車道ネットワーク協議会」が中心になっていろいろなイベントが展開中。南から亀山本徳寺・生野橋・辻川・屋形・福本の各地がこのイベントのポイント地点になっている。

10月27日（土）には辻川界隈まちづくり交流会が「銀の馬車道ウォーク」を、もち麦生産組合が「もちむぎ祭り」を行う。また、**10月31日（水）午後2時**から銀の馬車道劇団が田原小学校で旗揚げ公演をする。地元の小学生や松竹の俳優の渋谷天外さんも出演。馬車道建設当時の物語を人情喜劇に仕立てたそうだ。乞うご期待。

《 当面の予定 》

9月30日　道普請（少雨決行）
10月6・7日　秋祭り
11月　フラワーポット植替
12月　各種団体・隣保長会議

宮当番より祭礼行事の報告
◆7月8日（日）**夏えびす**
◆7月16日（祝）**夏まつり**
区長さんはじめ役員や当番の方三十名近くの参加（内、井ノ口から六名）の下、お奉りさせていただきました。［7隣保］

事業報告

◆7月11日（水）
行政懇談会での質疑応答を一部紹介します。

［質問］下水道工事後の旧道のカラー舗装等は？　→［回答］補助対象はアスファルト舗装のみ
［質問］旧辻川町営住宅跡地の返還請求に対する回答を文書で。→［回答］福崎町条例により寄付行為については返還できない。
［質問］辻川界隈まちづくりは各団体間の情報交換が希薄では。→［回答］各団体が一体となったまちづくりができるよう機能強化を図りたい。

◆7月16日（祝）
女性部が1隣保にある「銀の馬車道」大看板下の清掃とフラワーポット設置。

◆7月29日（日）～8月5日（日）　**辻川界隈展**
今年も松岡百貨店から東の旧道沿いを中心に、文芸作品（俳句・短歌・絵画・写真）、懐かしのおもちゃ、森崎大青氏・岩田健三郎氏・尾下昌士氏の作品等が街角に展示されました。また、七夕通りでは各隣保の七夕飾りや小学生による「街角キャンパス」が涼やかな雰囲気をかもし出しました。期間途中で大雨洪水警報が発令されたり台風5号がやってきたり・・・、飾りや展示物をはずしたり、つけたりで例年になく大変な界隈展でしたが、最後の「民俗学のタベ」のにぎやかさに疲れも吹っ飛びました。
最終日には　第二十八回「山桃忌」が開催され、町内外から五十名近くの参加がありました。

◆8月4日（土）
民俗学のタベ
辻川の納涼大会の内容が近隣地域にも定着してきたようで、地区外からも多くの見学者があり大盛況でした。境内いっぱいの見学者が、人形劇（近畿福祉大学生）、マジックショー（マジカル沼田氏他）、太鼓と獅子舞と餅つきばやし（花こま）、九州福岡からの猿回しを楽しみました。とりは恒例の「鬼太鼓」そして餅まき。辻川の小学生が頑張りました。今年の夜店はどこも黒字？だったそうです。

◆8月5日（日）
クリーン作戦行われる。
◆8月16日（木）**自治会対抗親善ソフトボール大会**
一回戦　○　16―2　加治谷
二回戦　○　5―0　庄
三回戦　●　1―8　大門

平均年齢四十八歳の辻川チームが岡野監督・鈴木部長のもと、応援ギャラリーの熱い声援も後押しし、見事ベスト8に輝きました。

◆9月17日（月）

敬老祝賀会

区内対象者147名（男性51名・女性96名）中53名の出席を得、文殊荘で催されました。女性部等のお手伝いもあり、昼食をとりながらの余興に和やかなひと時を過ごしました。

➡レインボーキッズのコーラス

➡炭坑節はお任せ

祭りにかける思い

各種団体の活動

秋祭り実行委員会

秋祭りを統括する辻川区の代表組織。秋祭り前に組織され、役割分担を確認する。統括責任者は釜坂区長、実行委員長は内藤副区長。乗り子指導・屋台飾り付けの青年団、屋台運行の木方・棒端、交通整理の消防団、食事準備の子供会・消防OB・中学PTA・女性部等9つの組織に分かれる。それぞれに担当協議委員が補佐する。

青年団

大学生として辻川を離れている青年も多く少数精鋭ではあるが、実質的な秋祭り運営の中心団体。元気に携わる。

☆「大鳴らし」は十月四日

明晩から屋台倉での練習に9月7日から始まった太鼓の練習も中日を過ぎ、いよいよ熱がこもってきた。今年の新乗り子は3人。頑張れ。

子供会

鉢巻切りから食事準備や子供警護まで、小学生の保護者として最も力の入る団体である。慣例として、父さんは後方から屋台を支える。

消防団

練り子として最も大きな力を発揮する。辻川では消防団のまとまりが祭りの出来を左右することが多い。慣例として屋台の前方に陣取る。

★秋祭りに協賛する

任意団体の取り組み紹介

消防OB会

祭りを盛り上げる枝豆やホルモンうどんは絶品。祭りを支える縁の下の力持ち。

やっこ会

のぼりの花飾りと「しで」を40本。やっこ会のこだわりは単純な物まねではない。しでには稲穂に紅白の水引。実りの秋を祈念する。

祭練会

旧道にのぼりと提灯。笹竹切りも担当する。祭りのにぎわいをつくり応援する。

★宮入順と宮中での位置

《西側》	拝殿	《東側》
		1．田尻
		2．大門
4．北野		3．加治谷
6．井ノ口	舞台	5．辻川
8．西光寺		7．中島
10．吉田		9．西野
12．長目		11．八反田
		13．亀坪

辻川の歴史スポット

古宮と鈴の森神社

■鈴の森神社には「明治36年5月建之」の玉垣が拝殿正面にあり、これが今の拝殿・社殿の建立年月になる。では、それ以前はどこにあったのか。古宮から宮が遷（うつ）されたという話も聞くが、結論から言うと、もともとこの地に今より多少小ぶりの神社があったようだ。明治4年の辻川村地図（三木家資料）には現在地に鈴の森神社や山口堂の絵が見える。ちなみに、今、掲げられている絵馬の中で最も古いものは天保3年（1832年）作である。

《古宮》

■『此（駒ヶ岩）より東北へ45町即ち鈴の社より1町足らずの西に、古宮と称する10坪ばかりの岩石の地あり。（鈴の森）明神は神馬に召して駒が岩より古宮へ飛ばれたと言伝ふ。併し、古宮の岩は燧（＝火打ち）石にして村人しばしば来りて之（これ）をかき取るが為に、ここには馬蹄の跡の残れるもの無きなり。（中略）この辺は水の手に遠き岡の端の新開畠（はたけ）なれば、恐らく以前は一円の社地の中にして、古宮は即ち森の片端に設けられたる昔の祭の御旅所なりしかと思はる』

「山島民譚集（一）馬蹄石」柳田國男著・・・國男さんは、古宮は鈴の森神社地の端にあり、鈴の森神社のお旅所であったと考えておられたようだ。

■古宮をつくる岩石はチャート。暖かい海にすむ放散虫という動物プランクトンの死骸が集まり固まってできたもので、その殻が水晶と同じ成分（二酸化ケイ素）で硬いために、昔から火打ち石に利用されたり、石器の原石になっていた。日本でマッチが一般に普及したのは明治中期だから、今の鈴の森神社が建立された頃には、古宮の火打ち石の産地としての「価値」は薄らいでいただろう。

■また、古神道では神霊がよりつく神の座（＝一般に磐座（いわくら））として堅硬な岩塔が用いられていたようだが、これがいわゆる御神体となっている神社もあるようだ。瀬加の岩戸神社も赤色チャートの崖を背後に持っているが、チャート＝石器の材料→火打ち石（硬く岩塔として残りやすい）＝神聖（御神体）→聖域（神社）という構図が描けなくもないと思っている。

■なお、古宮は地形的には段丘崖を形成しており、この地に人が住みつく前（約十万年前）には、今の駒ヶ岩同様、市川に洗われる川辺の露岩の時期があった。

『山崎断層と地震』

第3回 地震マメ知識

□地震のしくみ

地球の表面は十数枚のプレートと呼ばれる巨大な岩盤（厚さ100km程度）で覆われ、それらが相互にゆっくりと動いている。日本列島には4つのプレート（太平洋・フィリピン海・ユーラシア・北米）が集まる。近い将来心配されている南海・東南海・東海地震は、フィリピン海プレートがユーラシアプレートの下へ沈み込むことによって地下に蓄積されたひずみを解放するときに発生する（海溝型地震）。

一方、内陸部で発生する地震を内陸型または直下型地震という。プレートのぶつかりあう圧力が大地を圧迫し、地表付近の活断層が動いて地震を起こす。比較的浅いところで発生することが多く、都市直下型の場合、阪神淡路大震災のように大きな被害をもたらす。心配される山崎断層地震もこのタイプである。

□地震の大きさ

（マグニチュードと震度）

地震が吐き出したエネルギーの大きさを示す単位が『マグニチュード［M］』で、地震計の測定結果を解析して求める。Mが1大きくなるとエネルギー量は約32倍、2大きくなると1000倍になる。2004年12月のスマトラ島沖地震［M8.8］では1995年1月の兵庫県南部地震［M7.3］の約180倍のエネルギーが一気に出たことがわかる。

一方、『震度』はそれぞれの地域での揺れの程度で、震度計で測定する。震源からの距離だけでなく地盤の状態によって震度は異なる。震度が1大きくなると揺れは約3倍強くなる。日本の震度階級は0～7。兵庫県南部地震以降、震度5と6が強・弱に2分され、十段階に。一般に人的被害が出るのは震度5強以上のことが多い。また、本震より大きな余震（残されたひずみの解放）はない。

□緊急地震速報

十月一日からスタートする緊急地震速報は、山崎断層を震源とする地震の場合、ここ福崎では役に立たない。震源が近すぎるためであるが・・念のために

［田崎］

編集後記

「辻川だより」をB4版に拡大し、縦書き6段組みに変更しました。いかがですか。